2027年度PMからのメッセージ

氏名・所属：稲見 昌彦（東京大学 総長特任補佐 先端科学技術研究センター 副所長・教授）



専門分野：

・身体情報学
・人間拡張工学
・バーチャルリアリティ
・拡張現実感
・ウェアラブル技術
・エンタテインメント工学
・ロボット工学

略歴：

1999年	東京大学 大学院工学系研究科 博士課程修了、博士（工学）
	東京大学 国際・産学共同研究センター リサーチ・アソシエイト
2001年	東京大学 大学院情報理工学系研究科 助手
2003年	電気通信大学 電気通信学部 講師
2005年	電気通信大学 電気通信学部 助教授
	マサチューセッツ工科大学 コンピュータ科学・人工知能研究所 客員科学者（兼任）
2006年	電気通信大学 電気通信学部 教授
2008年	慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 教授
2014年	超人スポーツ協会 共同代表（兼任）
2015年	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
	慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 客員教授（兼任）
2016年	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
2017年	科学技術振興機構 ERATO 稲見自在化身体プロジェクト 研究総括（兼任）
2018年	IPA未踏IT人材発掘・育成事業 PM（兼任）
	東京大学バーチャルリアリティ教育研究センター 応用展開部門長（兼任）
2020年	東京大学 総長補佐（兼任）
	日本学術会議 連携会員(兼任)
2021年	日本工学アカデミー 会員(兼任)
2022年	東京大学 総長特任補佐（兼任）
	情報処理学会 理事(兼任)
2023年	東京大学先端科学技術研究センター 副所長(兼任)
	お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系教授(兼任)
2026年	日本バーチャルリアリティ学会 副会長(兼任)

メッセージ：

AIが文章を書き、コードを書き、いまや身体を得てロボットとして動き始めています。私自身、複数のAIエージェントにメールの下書きや日程の調整、資料づくりを手伝ってもらい、その仕組み自体も自分で作り直し続けています。

そこで改めて実感したのは、AIは「どう作るか（HOW）」には驚くほど強い一方で、「何を作るべきか（WHAT）」「なぜそれをやるのか」を決めるのは、今も人間の側だということです。もう一つあります。大規模言語モデルは、言葉にできる知が社会に蓄えられ、教育を通じて一人ひとりに同期されることを示しました。しかし、体で覚える技能や、心が動く体験は、そう簡単には同期できません。それぞれの身体に、時間をかけて取り込まれていくものです。

私は「自動化」と「自在化」を分けて考えています。自動化は誰かの仕事を置き換えますが、自在化は自分にできることを広げます。AIやロボットを自分の身体の延長のように使いこなし、自分と誰かができることを広げる提案を待っています。

心が動き、意志が芽生えるその瞬間こそが、挑戦の出発点です。そして、最もコピーできないのは、アイデアが生まれる場とコミュニティです。未踏はそうした場の一つだと思っています。まずは、自分と誰かが楽しくなるような提案を期待します。採択後には、その芽を未来の価値へと育てる作戦を、共に考えていきましょう。

審査基準（下記基準のうち2つ以上含むこと）：

1. 自分と特定の誰かが楽しくなるような提案
2. 居ても立ってもいられないほど実現したい提案
3. 原理検証用の簡単なプロトタイプを試作している方
4. 情報技術の適用領域が広がるような提案
5. PMと議論の上、いつか世界と未来に繋がることを目指したい方